

来村川より得られたただら模様のウナギ

水野晃秀・清水孝昭

1998年5月2日、愛媛県宇和島市来村川(くのむらがわ)の中流域(滝下橋より20m上流, 写真1)でウナギ地獄により興味深い斑紋を持ったウナギが採集された。このウナギは、体側下部から腹面にかけて白色、それより背面は黄褐色の地色に暗色の不定形斑紋が、左右非対称に分布していた(写真2)。本河川が位置する宇和海斜面には、ウナギ *Anguilla japonica* とオオウナギ *Anguilla marmorata* が分布するが(辻・平松, 1987)、得られた個体は黄褐色の部分のをぞいた体色や、背鰭始部の位置(胸鰭後端と肛門の間よりも前: 波戸岡, 1993)などの特徴はいわゆるウナギのようであった。



写真1. 採集地点(宇和島市来村川 滝下橋上手)

ウナギの仲間は世界中で1属15種および3亜種が知られており(塚本, 1998)、ヨーロッパウナギ *Anguilla anguilla* などいくつかの種類は人為的に国内に持ち込まれ、養殖ないし河川に放流されている(多部田, 1980)。今回得られた個体がそうした移入種の可能性も考えられたため、ウナギ属魚類の分類形質である脊椎骨数について、軟X線撮影により調査した。この結果、総脊椎骨数116、背鰭始部より前方の脊椎骨数28、背鰭始部から肛門までの脊椎骨数10であり、各基点間の脊椎骨数の組み合わせ(Tabeta et al., 1976)によりウナギ *A. japonica* と同定された。したがって、採集個体はウナギの体色斑紋の突然変異と考えられたが、本種のこうした変異については今回は情報を得られなかった。個体は採集後1ヶ月以上宇和島水産高校にて飼育されたが、体色は採集されたときのまま変化は見られず、同年6月25日に10%ホルムアルデヒド溶液にて固定した。標本は現在、大阪市立自然史博物館に登録・保管されている(OMNH-P11404, 全長379.0mm)。

稿を終えるにあたり、御校閲を賜り、標本の整理・保管にご助力いただいた大阪市立自然史博物館の波戸岡清峰氏と、採集したウナギを提供して頂いた宇和島市の田中忠氏に感謝の意を表す。

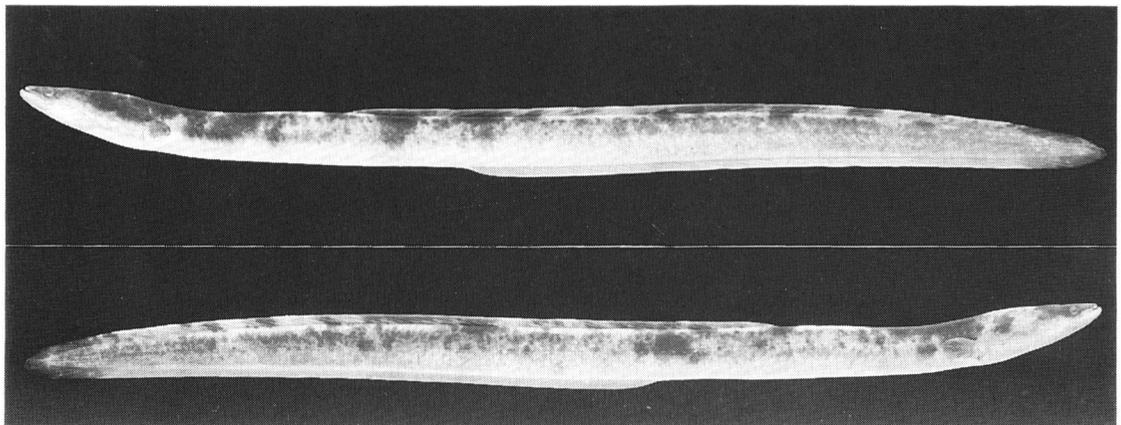


写真2 採集個体(生鮮時。全長379.0mm。上:左側面,下:右側面)

引用文献

- ・波戸岡清峰. 1993. ウナギ科. 中坊徹次編, 日本産魚類検索—全種の同定—. 156, 1248, 東海大学出版会, 東京.
 - ・多部田 修. 1980. 外来ウナギ—魚病も侵入. 川合禎次・川那部浩哉・水野信彦編, 日本の淡水生物 侵略と攪乱の生態学, 162-170, 東海大学出版会, 東京.
 - ・Tabeta, O., Takai, T. and I. Matsui. 1976. The sectional counts of vertebrae in the anguillid elvers. Japanese Journal of Ichthyology, 22 : 195-200.
 - ・辻 幸一・平松 亘. 1987. 宇和海産魚類目録Ⅱ. 南予生物, 2 (1・2) : 1-15.
 - ・塚本勝巳. 1998. 日高敏隆監, 中坊徹次・望月賢二編, 日本動物大百科 第6巻 魚類. 16-18, 平凡社, 東京.
- (みずのこうき : 愛媛県立宇和島水産高等学校 〒798-0068 宇和島市明倫町 1-39・しみずたかあき : 愛媛県中予水産試験場 〒799-3125 伊予市森字末宗甲 121-3)